

偏見の表明に対する記述的規範の影響
—サーベイ実験を用いた検証—

2025 年 3 月/March, 2025

ISS Discussion Paper Series

J-254

永吉希久子^{*}，潮村公弘[†]・田辺俊介[‡]・齋藤僚介[§]・瀧川裕貴^{**}

^{*} 東京大学社会科学研究所 准教授 nagayoshi@iss.u-tokyo.ac.jp

[†] フェリス女学院大学文学部 教授 shiomura@ferris.ac.jp

[‡] 早稲田大学文学学術院 教授 tanabe.sh@waseda.jp

[§] 大阪大学人間科学研究科 助教 rysksit@hus.osaka-u.ac.jp

^{**} 東京大学大学院人文社会系研究科 准教授 takikawa@l.u-tokyo.ac.jp

偏見の表明に対する記述的規範の影響：サーベイ実験を用いた検証

永吉希久子・潮村公弘・田辺俊介・齋藤僚介・瀧川裕貴

1. はじめに

本研究の目的は、偏見に対する記述的規範の影響を明らかにすることにある。ここで「偏見」とは、「ある集団の成員であることによって集団や個人に対して行われる否定的評価」と定義できる (Crandall et al. 2002: 359)。偏見の表出に関する多くの研究が、それが社会規範の影響を受けることを指摘してきた (e.g., Crandall and Eshleman 2003; Creighton and Jamal 2015)。今日の社会では偏見をもっていること、それを口に出すことには、自分自身の評判を損なうなどのサンクションが伴うため、人はたとえ偏見を持っていたとしても、それを公にすることを避けようとする。そのため、偏見はこれまで以上に見えにくい形で、あるいは、これまでとは異なる表現形式で表出されるようになったと、これらの研究は指摘している。

ただし先行研究では、すべての集団に対する偏見が一様に抑制されるわけではないことも示されてきた。たとえばアメリカにおける研究では、キリスト教徒の移民への偏見はイスラームの移民への偏見より (Creighton and Jamal 2015)、人種的マイノリティへの偏見はドラッグ利用者や元犯罪者への偏見よりも¹ (Crandall et al. 2002)、隠蔽されやすいことが示されている。逆に言えば、アメリカにおいてイスラームへの偏見や、ドラッグ利用者、元犯罪者への偏見は相対的に社会的に許容されている、あるいは少なくともそのように対象者に認識されている。そして、偏見を表出していけないという認識を強く持つ人は、このような社会的に偏見をもつことが適切とされているとされる集団に対しては、むしろ強い偏見を示す傾向にあった (Crandall et al. 2002)。日本を対象とした研究では、外国人への否定的態度がむしろ過剰に表明されるという結果が示された (Igarashi and Nagayoshi 2021; 永吉ほか 2023)。この場合、外国人に対して否定的態度を持つことがむしろ社会的に望ましい態度だと、対象者が認識している可能性が示唆される。

もし日本において、外国人に対して否定的な態度を持つことが望ましいと認識されているとするならば、それはなぜなのであろうか。本稿では意見空間の影響に着目し、そこで多くの他者が偏見を表出していることを目撃したことが、規範の認識に影響を与え、過剰な偏見の表出を促している可能性を検証する。

2. 二つの規範と偏見

規範は命令的規範と記述的規範に分けられる (Cialdini et al. 1990; Reno et al. 1993; Lapinski and Rimal 2005)。命令的規範とは「道徳的に承認された、なすべきこと」を指す

¹ この調査の対象者はある大学の心理学専攻の学生と限定されているため、アメリカ社会一般にこうした傾向が見られるかはわからない (Crandall et al. 2002)。

のに対し、記述的規範とは「何が普通か」、すなわち他者が一般にどのように振る舞っているかによって構成される (Cialdini et al. 1990: 1015)。既存の研究においては、記述的規範がゴミのポイ捨て (Cialdini et al. 1990)、窃盗行為 (Cialdini et al. 2006)、新型コロナの感染予防行動 (Ryoo and Kim 2023)、信号無視 (北折・吉田 2000)、寄付行為 (Agerström et al. 2016) など、多様な行動に強い影響を与えることが示されている²。つまり、寄付行為のように社会的に望ましい行動について、多くの人がそれを行っていると知られることによって促進されるだけでなく、ゴミのポイ捨てのように社会的に望ましくない行為であっても、多くの人が行っていれば、それに従ってしまう。Ryoo と Kim (2003: 732) が指摘するように、命令的規範を受容するには行為の望ましさについての検討を必要とするが、何が標準的なふるまいか (記述的規範) は即座に理解できるため、容易に模倣されると考えられる³。

先行研究では、記述的規範が偏見に対しても影響を与えていることが指摘されてきた。これらの研究では実験的手法を用い、他者の差別的行為にさらされることが、対象者の偏見の表出にどのような影響を与えるかを検証している (e.g., Crandall et al. 2002; Álvarez-Benjumea and Winter 2018, 2020; Álvarez-Benjumea 2023)。たとえば Álvarez-Benjumea と Winter (2018) は実験参加者を LGBT の権利、フェミニスト、難民と多文化主義、貧困について議論されているオンラインの掲示板に誘導し、コメントを残すよう依頼した。掲示板は 4 つの条件に分けられ、統制群では議論の対象について肯定、否定、中立のコメントが 2 つずつ表示されていた。検閲群 (記述的規範) では、肯定と中立のコメントが 2 つずつ表示され、極端な検閲群では 3 つの肯定的なコメントが表示されていた。命令的規範を示す反論群では 1 つの肯定的コメント、1 つの中立的コメント、2 つの否定的コメントとそれに対する 2 つの反論が表示されていた。対象者がどの程度差別的コメントを残すのかを比較したところ、反論群では差別的コメントを残す程度に統制群と差がないのに対し、検閲群では統制群よりも低くなっていた。Álvarez-Benjumea と Winter (2018) は実験条件において命令的規範が曖昧だった可能性に言及しつつも、記述的規範が偏見の抑制により効果的である可能性を指摘している。このような記述的規範の影響は強い偏見を持っている人において顕著にみられる (Álvarez-Benjumea 2023)。

これらの点から考えれば、社会の中に外国人に対して否定的な言説が多くみられる場合、それが規範として認識され、偏見の表出に影響を与えられられる。日本において、外国人に対する言説がどのようなものを主流としているのかは明らかではない。しかし、それが否定的なものであることはいくつかの調査からうかがえる。たとえば法務省 (2023) が 2022

² ただし、投票行動への影響はそれほど明確ではない (Panagopoulos et al. 2014; Gerber et al. 2018)

³ 彼ら自身の研究では、記述的規範の影響は命令的規範によって抑制されるとの結果も得られている (Ryoo and Kim 2003)。

年に外国籍住民を対象に実施した調査では対象者の 36%がヘイトスピーチ（民族や国籍を理由に、日本から追い出そうとしたり、危害を加えようとしたりすること）を見聞きしたことがあると回答していた。その媒体として、63.2%がインターネットを、27%程度が街宣活動とデモを、18.6%がテレビを選んでおり、マスコミや公共空間以上に、インターネットにおいてそうした言説が広がっていることがわかる。オンライン上での差別的言説は、特に中国人や韓国人に対して向けられる（高 2015; 曹 2017, 2018; 木村 2018）。Yahoo!ニュースの社会や政治に関連する記事に対するコメントに対する分析からは、韓国や中国に対する否定的発言が頻繁に見られることを示している（曹 2017; 木村 2018）。Yahoo!ニュースのようなポータルサイトは多くの人に閲覧されていることを考えれば（Kobayashi and Inamasu 2015）、こうした言説の広がりが人々の規範の認識に影響を与えている可能性がある。

永吉ほか（2023）では、潜在連合テスト（Implicit Association Test, IAT）（Greenwald et al. 1998）を用いて潜在的に持つ韓国人への偏見を測定し、それと偏見の表出との関連を検証した。その結果、政治的関心が高く、潜在的偏見の弱い人が、回答において偏見を表出する傾向にあることが示された。これが記述的規範の影響を受けたものであるのか、潜在的な偏見の表出の程度が記述的規範によって異なる可能性がある。こうした観点から、本稿では日本においても記述的規範が偏見の表出に影響を与えるのか、実験を組み合わせた調査から検討する。

3. データと変数

3. 1 調査の設計

記述的規範の偏見の表出に対する影響を検証するため、Qualtrics 上にオンラインのニュースサイトを模した画面を作成し、そこでのコメントにおける偏見の表出を操作した⁴。ニュースは実際のニュースを一部改変し、コロナ後の韓国人観光客受け入れについてのニュースと、ヘイトスピーチ規制法による認定が行われたことを伝えるニュース（Appendix A 参照）を作成した。ニュース記事の下には7つのコメントが表示される。肯定条件では4つの韓国人に対する肯定的意見、2つの否定的意見、1つの中立意見が表示され、否定条件では4つの否定的意見、2つの肯定的意見、1つの中立意見が表示される⁵。表示されるコメン

⁴ この実験は東京大学大学院人文社会系研究科の研究倫理審査を経て許可を受けた（UTSO-22001）。

⁵ コメントの選定にはプレ調査を実施した。プレ調査では23のコメントを作成し、133人に対象者にそれぞれ15個のコメントをランダムに表示し、それぞれが韓国人に対して肯定的か否定的か（9段階）、説得的か（9段階）、コメントへの支持（9段階）を尋ねた。これらの質問のうち、韓国人に対して肯定的か否定的かについての回答を用い、平均値が高いもの、低いもの、平均的（5程度）であるものを選んだ。

トの順番は、多数派意見のコメントまたは中立的意見のコメントが 4 つ続いた後に、少数派意見のコメントが表示され、再び多数派意見のコメントまたは中立的意見のコメントが 4 つ続いた後に、少数派意見のコメントが表示されるという順にした。対象者は、2 つの記事のいずれか、2 つのコメント条件のいずれかにランダムに割り当てられる。

記事とコメントの表示後⁶、さまざまな国の出身者への好感度と日本への受け入れへの態度を尋ねた。最後に属性についての質問を行った後に、IAT の画面

(<https://www.exploreimplicit.com/>) に移行し、韓国人への潜在的偏見の測定を行った。IAT は永吉ほか (2023) と同じ設計のものを用いている。最後に、実験に用いた記事とコメントが架空のものであることと、調査の目的についてのデブリーフィングを行った。そのうえで、データ使用について改めて同意が得られた対象者の回答のみ、分析に用いている。本稿には使用する変数に欠損値のない、1234 名のデータを用いている。

3. 2 変数

韓国人への顕在的偏見は二つの変数で測定した。一つは好感度であり、「いくつかの国の国民について、ご意見をお聞かせください。0 を「とても嫌い」、10 を「とても好き」とします。あなたの好き嫌いはどこに位置しますか。」という質問を、日本人、アメリカ人、中国人、韓国人について行った。この中の「韓国人」に対する態度を用いる。この際、値を反転させ、好感度が低いほど値が高くなるようにしている。

もう一つは受け入れ支持であり、「あなたが生活している地域に、以下の人々が増えることに賛成ですか、反対ですか。それぞれもっとも近いものを一つ選んでください。」という質問を、アメリカ人が増えること、中国人が増えること、韓国人が増えることについて行っている。回答は「賛成」「やや賛成」「どちらともいえない」「やや反対」「反対」の 5 点尺度で尋ねられており、値が大きいほど受け入れに反対する傾向にあることを示すように得点化した。

独立変数はコメント条件（肯定条件か否定条件か）と記事条件（観光客記事かヘイトスピーチ（HS）記事か）、韓国人への潜在的偏見である。潜在的偏見は、IAT によって測定された D 尺度 (Greenwald et al. 2003) を用いる。

統制変数として、年齢、性別、教育年数、政治的関心、韓国人の友人の有無を用いる。年齢は調査時の年齢、性別は男性または女性の二値変数⁷、教育年数は中学校を 9 年、高校を

⁶ コメントの表示後、それぞれの記事にリアクションするとしたらどのようなものか（いいね、よくないね、何もしない）、コメントを書くとしたらどのようなものか（自由記述）についても尋ねている。

⁷ 調査票では「その他」「答えたくない」を設けていたが、「その他」を選んだ人は 2 人、「答えたくない」を選んだ人は 1 人であったため、独立したカテゴリとして扱うことができない。そのため、これらの対象者は分析から除外した。

12 年、専門学校、短大・高専を 14 年、大学を 16 年、大学院を 18 年とみなし、連続変数として扱った。政治的関心は「選挙のある／なしにかかわらず、いつも政治に関心をもっている人もいますし、あまり関心をもたない人もいます。あなたは政治上の出来事に、どれくらい関心をもっていますか」という質問への回答を用いている。回答は「つねに関心を払っている」「ときどき関心を払っている」「たまに関心を払っている」「ほとんど関心を払っていない」の 4 点尺度で与えられており、値が大きいほど関心の程度が高くなるように得点化した。「韓国人の友人の有無は「あなたは以下の国の友人や知人がいますか。」という問いの中の「韓国人の友人・知人」を用いており、「たくさんいる」または「少しいる」を選んだ場合を 1、「まったくいない」を選んだ場合を 0 とする二値変数とした。

上記の使用変数すべてに有効回答があった 1234 人のデータを用いる。これらの変数の記述統計量は以下の表 1 に示した。潜在的偏見の平均値や標準偏差は過去に実施した調査とほぼ一致しており、頑健な結果であるといえる（永吉ほか 2023）。

表 1 使用変数の記述統計量

	n	平均値	標準偏差	最小値	最大値
好感度	1,234	6.34	2.30	0.00	10.00
受け入れ支持	1,234	3.77	1.00	1.00	5.00
潜在的偏見	1,234	0.56	0.32	-0.64	1.61
年齢	1,234	46.74	13.31	20.00	69.00
教育年数	1,234	14.61	1.98	9.00	18.00
政治的関心	1,234	2.56	1.01	1.00	4.00

	n	%
男性	610	49.43
女性	624	50.57
友人なし	1,080	87.52
友人あり	154	12.48
肯定条件	615	49.84
否定条件	619	50.16
観光客記事	583	47.24
HS 記事	651	52.76

4. 結果

まず、それぞれの記事について、コメントの多数派意見によって顕在的偏見の度合いが異なるのかを確認した（表 2）。2 つの偏見の指標どちらを使った場合も、どちらの記事についても、否定条件の場合に肯定条件よりも顕在的偏見の度合いは高くなっている。ただしその差は大きなものではなく、ヘイトスピーチ記事に関しては統計的に有意な差とはいえない。

表2 多数派コメントの違いによる顕在的偏見の平均値の違い

	受け入れ支持					
	観光客記事			HS 記事		
	平均値	標準誤差	n	平均値	標準誤差	n
否定条件	3.89	0.06	292	3.79	0.05	323
肯定条件	3.74	0.06	291	3.67	0.06	328
t	1.84			1.47		
p (両側検定)	0.07			0.14		

	好感度					
	観光客記事			HS 記事		
	平均値	標準誤差	n	平均値	標準誤差	n
否定条件	6.61	0.13	292	6.40	0.12	323
肯定条件	6.18	0.14	291	6.16	0.13	328
t	2.26			1.34		
p (両側検定)	0.02			0.18		

では、この多数派コメントの意見の違いによる顕在的偏見の程度の差は、潜在的偏見によって異なるのだろうか。これを検証するため、潜在的偏見と実験条件の交互作用効果を用いた重回帰分析を行った。好感度を従属変数とした場合（表 3a）、肯定条件の場合に否定条件よりも顕在的偏見が低くなる傾向がみられた。しかし、潜在的偏見は主効果については統計的に有意な正の効果がみられたが（モデル 1）、実験条件との交互作用項は統計的に有意な効果をもたなかった。また、記事の内容は顕在的偏見に影響を与えていなかった。

統制変数についてみると、女性は男性よりも、韓国人の友人がいる場合にいない場合よりも、顕在的偏見が低くなる傾向がみられた。

表 3a 韓国人への好感度に対する多数派意見と潜在的偏見の関連

	モデル 1		モデル 2		モデル 3	
	B	S.E.	B	S.E.	B	S.E.
潜在的偏見	0.516**	(0.199)	0.404	(0.275)	0.301	(0.308)
* 肯定条件			0.222	(0.400)		
* HS 記事					0.389	(0.402)
否定条件						
肯定条件	-0.290*	(0.129)	-0.291*	(0.129)	-0.291*	(0.129)
観光客記事						
HS 記事	-0.137	(0.129)	-0.138	(0.129)	-0.137	(0.129)
年齢	0.005	(0.005)	0.005	(0.005)	0.005	(0.005)
男性						
女性	-0.517**	(0.133)	-0.519**	(0.133)	-0.515**	(0.133)
教育年数	0.032	(0.033)	0.033	(0.033)	0.032	(0.033)
政治的関心	0.084	(0.071)	0.082	(0.072)	0.084	(0.071)
韓国人の友人あり	-0.711**	(0.208)	-0.707**	(0.209)	-0.709**	(0.209)
切片	5.968**	(0.548)	5.966**	(0.548)	5.971**	(0.548)
n	1234		1234		1234	
調整済み決定係数	0.034		0.033		0.034	

注) ** $p < 0.01$, * $p < 0.05$, + $p < 0.1$

同様の結果は、従属変数を受け入れ支持とした場合にも確認された（表 3b）。肯定条件では顕在的偏見が低下する傾向がみられ、潜在的偏見の主効果には統計的に有意な正の交換がある（モデル 1）が、潜在的偏見と肯定条件には統計的に有意な交互作用は確認されない。ただし、好感度を従属変数とした場合と異なり、ヘイトスピーチ記事条件と潜在的偏見の交互作用に統計的に有意な正の関連が確認された（モデル 3）。つまり、ヘイトスピーチに関する記事を見た対象者の受け入れ支持の程度は、観光客に関する記事を見た場合よりも顕著に、潜在的偏見の程度によって異なる。他の変数を平均値で固定して、潜在的偏見の程度別に記事条件の限界効果を求めたところ、図 1 のようになった。興味深いのは潜在的偏見の程度が高い人の中でではなく、低い人の中で記事条件の効果がより強く現れていることである。つまり、ヘイトスピーチ記事を見た場合、偏見の弱い人が韓国人の受け入れに肯定的な回答をしやすくなる。

表 3b 韓国人の受け入れ支持に対する多数派意見と潜在的偏見の関連

	モデル 1		モデル 2		モデル 3	
	B	S.E.	B	S.E.	B	S.E.
潜在的偏見	0.318**	(0.090)	0.223+	(0.120)	0.120	(0.131)
* 肯定条件			0.188	(0.178)		
* HS 記事					0.357*	(0.177)
否定条件						
肯定条件	-0.114*	(0.056)	-0.114*	(0.056)	-0.115*	(0.056)
観光客記事						
HS 記事	-0.092	(0.056)	-0.092+	(0.056)	-0.092	(0.056)
年齢	0.006**	(0.002)	0.006**	(0.002)	0.006**	(0.002)
男性						
女性	-0.090	(0.058)	-0.091	(0.058)	-0.088	(0.058)
教育年数	0.011	(0.015)	0.012	(0.015)	0.011	(0.015)
政治的関心	0.065*	(0.031)	0.063*	(0.031)	0.064*	(0.031)
韓国人の友人あり	-0.254**	(0.094)	-0.251**	(0.094)	-0.253**	(0.094)
切片	3.337**	(0.238)	3.335**	(0.238)	3.339**	(0.238)
n	1234		1234		1234	
調整済み決定係数	0.035		0.035		0.037	

注) ** $p < 0.01$, * $p < 0.05$, + $p < 0.1$

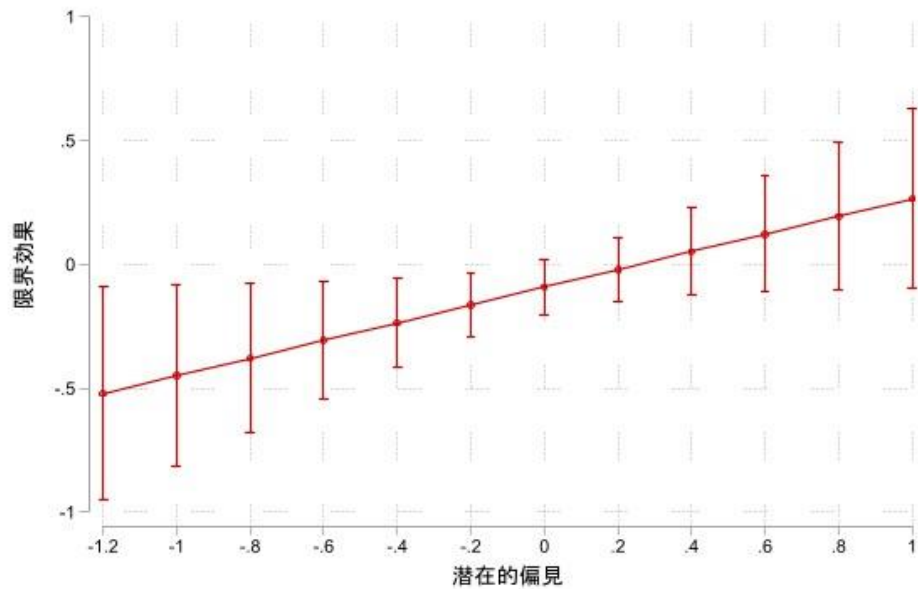


図 1 潜在的偏見の程度による記事条件の限界効果

注：他の変数は平均値に固定

統制変数についてみると、韓国人の友人がいることとの関連は好感度の場合と共通しているが、性別との統計的に有意な関連はみられなくなり、代わりに年齢と政治的関心との間に正の関連がみられた。年齢が高いほど、政治的関心が高いほど、韓国人の受け入れに否定的になる傾向がある。

補足的な分析として、記事内容の条件と多数派意見の条件の交互作用および潜在変数も加えた三次の交互作用の、顕在的偏見との関連を調べた（表 4）。好感度を用いた場合でも、受け入れ支持を用いた場合でも、一貫した関連を示すのは肯定条件の主効果のみであり、ヘイトスピーチ記事が潜在的偏見の低い人の顕在的偏見を弱めるという関連について、多数派意見による違いは確認されなかった。

表 4 韓国人の好感度・受け入れ支持に対する記事内容、多数派意見、潜在的偏見の交互作用の関連

	好感度				受け入れ支持			
	モデル 1		モデル 2		モデル 1		モデル 2	
	B	S.E.	B	S.E.	B	S.E.	B	S.E.
潜在的偏見	0.514**	(0.199)	0.129	(0.463)	0.317**	(0.090)	0.098	(0.185)
* 肯定			0.322	(0.623)			0.042	(0.263)
* HS			0.489	(0.569)			0.224	(0.242)
* 肯定								
* HS			-0.171	(0.811)			0.274	(0.355)
否定条件								
肯定条件	-0.403*	(0.189)	-0.409*	(0.189)	-0.136+	(0.082)	-0.142+	(0.082)
観光客記事								
HS 記事	-0.245	(0.179)	-0.250	(0.179)	-0.113	(0.078)	-0.116	(0.078)
* 肯定	0.214	(0.257)	0.222	(0.257)	0.043	(0.113)	0.050	(0.112)
年齢	0.006	(0.005)	0.006	(0.005)	0.006**	(0.002)	0.006**	(0.002)
男性								
女性	-0.521**	(0.133)	-0.522**	(0.133)	-0.091	(0.058)	-0.089	(0.058)
教育年数	0.034	(0.033)	0.034	(0.033)	0.012	(0.015)	0.012	(0.015)
政治的関心	0.082	(0.071)	0.079	(0.072)	0.064*	(0.031)	0.062*	(0.031)
韓国人の友人あり	-0.704**	(0.209)	-0.699**	(0.210)	-0.253**	(0.095)	-0.246**	(0.095)
切片	6.005**	(0.553)	6.011**	(0.554)	3.344**	(0.240)	3.338**	(0.241)
n	1234		1234		1234		1234	
調整済み決定係数	0.034		0.032		0.034		0.036	

5. 考察

本稿は記述的規範が偏見の表出に与える影響を、架空のオンラインニュースサイト上での多数派コメントの意見と顕在的な偏見の関連、およびその潜在的偏見の度合いによる差の分析を通じて検証した。オンライン調査会社のモニターを対象とした調査の結果、次のことが明らかになった。

コメントの多数派意見は顕在的な偏見の程度と関連し、多数派の意見が韓国人に肯定的である場合に否定的である場合に比べ、顕在的な偏見の程度は弱くなる傾向がみられた。しかし、コメントの多数派意見と潜在的偏見の交互作用には顕在的な偏見との間に統計的に有意な関連がみられず、多数派意見が潜在的偏見の表出に影響を与えているとはいえない結果となった。言い換えれば、潜在的偏見の度合いによらず、多数派意見に合わせた意見が表出されていたともいえる。これは、記述的規範の影響が通常隠されている偏見の表出を促す影響を持つというよりも、「このような質問にはどのような態度を示すのが標準的なのか」に対する認識に影響することで、人々の顕在的な偏見に関する質問への回答に変化を生んだことを示唆している。Crandall et al. (2002)では、顕在的な偏見を抑制しようという意識が強い人ほど多数派意見に影響を受けることが示されている。このような意識も含め、どのような条件で記述的規範の影響の受けやすさが変化するかを検証するのは、今後の課題となる。

一方、記事の内容と顕在的な偏見の関連は、潜在的偏見によって異なる可能性が示唆された。潜在的偏見の低い人は観光客受け入れ再開に関する記事ではなく、ヘイトスピーチに関する記事を見た場合に、韓国人の受け入れを支持する傾向がある。ヘイトスピーチ規制法が適用されたという記事は、差別的発言に対してサンクションがあることを明示するものであり、命令的規範としての反差別を示すものと言えるだろう。ここから、反差別が記述的規範ではなく命令的規範として認識される場合に、潜在的偏見の低い人が韓国人への肯定的な態度を表出しやすくなっていると考えられる。この際、命令的規範の明示が潜在的偏見の高い人の偏見の表出を抑制するという形以上に、潜在的偏見の弱い人たちの肯定的態度の表出を促すという点は重要である。通常の状態において、潜在的偏見の弱い人たちが自分の持っている態度を表出することが難しくなっていることが示唆されるからだ。ただし、好感度については同様の関連は見られないため、今後の研究によって結果の頑健性を確認する必要がある。

今回の分析では好感度や受け入れ支持への回答をもって顕在的な偏見を測定したが、社会的により重要なのは、ニュースサイトにどのようなコメントを残すかといった「行動」により近い側面であろう。対象者の残したコメントには、韓国人への強い偏見を表明するものもあった。このコメントを用いた場合にも上記の結果が確認されるかを検証するのも今後の課題となる。

参考文献

- Agerström, J., R. Carlsson, L. Nicklasson, and L. Guntell. 2016. "Using descriptive social norms to increase charitable giving: The power of local norms." *Journal of Economic Psychology* 52: 147-153.
- Álvarez-Benjumea, A. 2023. "Uncovering hidden opinions: social norms and the expression of xenophobic attitudes." *European Sociological Review* 39: 449-463.
- Álvarez-Benjumea, A. and F. Winter. 2018. "Normative Change and Culture of Hate: An Experiment in Online Environments." *European Sociological Review* 34 (3): 223-237.
- Álvarez-Benjumea, A. and F. Winter. 2020. "The breakdown of antiracist norms: A natural experiment on hate speech after terrorist attacks." *Proceedings of National Academy of Sciences of the United States of America* 117 (37). doi:10.1073/pnas.2007977117.
- Cialdini, R. B. and C. A. Kallgren. 1990. "A Focus Theory of Normative Conduct: Recycling the Concept of Norms to Reduce Littering in Public Places." *Journal of Personality and Social Psychology* 58 (6): 1015-1026.
- Cialdini, R. B., L. J. Demaine, B. J. Sagarin, D. W. Barrett, K. Rhoads, and L. Winter. 2006. "Managing social norms for persuasive impact," *Social Influence* 1 (1): 3-15.
- Crandall, C. S. and A. Eshleman. 2003. "A Justification-Suppression Model of the Expression and Experience of Prejudice." *Psychological Bulletin* 129 (3): 414-446.
- Crandall, C. S., A. Eshleman, and L. O'Brien. 2002. "Social Norms and the Expression and Suppression of Prejudice: The Struggle for Internalization." *Journal of Personality and Social Psychology* 82 (3): 359-378.
- Creighton, M. J. and A. Jamal. 2015. "Does Islam play a role in anti-immigrant sentiment? An experimental approach." *Social Science Research* 55: 89-103.
- Gerber, A. S., G. A. Huber, A. H. Fang, and C. E. Reardon. 2018. "The Comparative Effectiveness on Turnout of Positively versus Negatively Framed Descriptive Norms in Mobilization Campaigns." *American Political Research* 46 (6): 996-1101.
- Greenwald, A. G., McGhee, D. E., & Schwartz, J. L. 1998. "Measuring individual differences in implicit cognition: the implicit association test." *Journal of personality and social psychology*, 74(6), 1464-1480.
- Greenwald, A. G., Nosek, B. A., & Banaji, M. R. 2003. "Understanding and using the implicit association test: I. An improved scoring algorithm." *Journal of personality and social psychology*, 85(2), 197-215.
- 法務省. 2023. 「令和4年度在留外国人に対する基礎調査報告書」
- Igarashi, A. & K. Nagayoshi. 2022. "Norms to Be Prejudiced: List Experiments on Attitudes towards Immigrants in Japan." *Social Science Research* 102:102647.
- 木村忠正. 2018. 『ハイブリッド・エスノグラフィ：NC研究の質的方法と実践』新曜社.

- 北折充隆・吉田俊和. 2000. 「記述的規範が歩行者の信号無視行動に及ぼす影響」『社会心理学研究』 16 (2): 73-82.
- Kobayashi, T. & K. Inamasu. 2015. "The Knowledge Leveling Effect of Portal Sites." *Communication Research* 42: 482-502.
- Lapinski, M. K. and R. N. Rimal. 2005. "An Explication of Social Norms." *Communication Theory* 15 (2): 127-147.
- 永吉希久子・潮村公弘・田辺俊介・齋藤僚介・瀧川裕貴. 2024. 「韓国人に対する偏見の表出と社会規範：IAT を用いた潜在的偏見の測定と顕在的偏見との関連の検証」『理論と方法』 38 (2): 212-224.
- Panagopoulos, C., C. W. Lariemer, and M. Condon. 2014. "Social Pressure, Descriptive Norms, and Voter Mobilization." *Political Behavior* 36 (2): 451-469.
- Reno, R. R., R. B. Cialdini, and C. A. Kalgren. 1993. "The Transsituational Influence of Social Norms." *Journal of Personality and Social Psychology* 64 (1): 104-112.
- Ryoo, Y. and W. Kim. 2023. "Using Descriptive and Injunctive Norms to Encourage COVID-19 Social Distancing and Vaccinations." *Health Communication* 38 (4): 732-741.
- 曹慶鎬. 2017. 「インターネット上におけるコリアンに対するレイシズムと対策の効果："Yahoo!ニュース"のコメントデータの計量テキスト分析」『応用社会学研究』 59: 113-127.
- 曹慶鎬. 2018. 「インターネット上の災害時「外国人犯罪」の流言に関する研究：熊本地震発生直後の Twitter の計量テキスト分析」『応用社会学研究』 60: 79-89.
- 高史明. 2015. 『レイシズムを解剖する：在日コリアンへの偏見とインターネット』勁草書房.

付記：

本研究は J SPS 科研費 JP20K02059、JP20K03319 の助成を受けたものです。

Appendix: 実験で用いた記事

観光客記事：2022年7月26日の聯合ニュースのウェブ配信記事

(<https://news.yahoo.co.jp/articles/194368750e3b1f2e49f1f51f88bd569bea18a49f>) を一部改変。

訪日観光再開後初の韓国人団体客が成田到着

「わくわくしている」韓国人団体ツアー客20人が6日、日本の成田国際空港に到着した。日本政府が先月10日に外国人団体ツアー客の受け入れを再開後、韓国人客の訪日は初めて。友人と共にツアーに参加した会社員のキム・ドヒョンさんは2年7か月ぶりの日本訪問に胸を膨らませていた。日本文化に関心があり、新型コロナウイルス発生前はたびたび日本を訪れていたキムさんは「団体ツアーが認められるというので、すぐに予約した。さらに旅行しやすくなり、早く個人旅行も認めてもらいたい」と話した。

ツアー客のヤン・ジウクさんは「新型コロナなどの影響で日本に来るのは4年ぶり。わくわくしている」と語り、寿司などおいしい料理や観光を楽しみたいと期待を寄せた。「また日本を訪れる計画があるか」との質問に「10月に九州に行き、温泉に入る予定」と答えている。観光業の活性化に向けて、訪日観光客の増加が期待されている。

肯定的コメント例：



韓国旅行で道に迷って困ってたら、母親ぐらいの年齢の女性に助けてもらったことがあります。この記事にまでネガティブコメント付けてる人は、実際に韓国の人と話したりしたことがあるんじゃないかな。

否定的コメント例



韓国からの観光客はたいしてお金落さないらしいし、ヨーロッパとか、もっとお金使ってくれる国から受け入れたほうがいいよ。

中立コメント例：



そろそろ海外旅行も解禁したい。今は飛行機代が高すぎるから、それも安くなってほしい。

ヘイトスピーチ記事：2021 年 12 月 15 日の読売新聞のウェブ配信記事
(<https://www.yomiuri.co.jp/national/20211214-OYT1T50333/>) を一部改変。

「朝鮮人は危険」と主張するチラシ、多くの世帯に配布...条例に基づき個人名公表

大阪市は14日、在日韓国・朝鮮人を中傷するチラシを配布したとして、ヘイトスピーチ（憎悪表現）抑止条例に基づき、個人名を市のホームページで公表した。公表されたのは「朝鮮人のいない日本を目指す会」代表者。市によると、代表者は2018年12月29日、大阪市生野区鶴橋の住宅街で「朝鮮人は危険」などと主張するチラシを多数の世帯に配布した。19年に審査の申し立てがあり、市が有識者でつくる審査会の答申を踏まえ、ヘイトスピーチと認定した。

肯定的コメント例



国籍や民族が違っただけで、相手を傷つけてもいいと思ってるんだらうか。相手は血の通った同じ人間だよ。言葉が命を奪うことだってあるんだよ。

否定的コメント例



わざわざチラシにして配ったのが悪いだけで、みんな思ってることじゃない？

中立的コメント例



これ一軒一軒回ったんだらうか。すごいやる気だな（笑）